

平成 22 年度の協働パイロット事業については、前年に引き続き、1 事業当たりの事業額 25 万円以内で 4 事業を募集したところ、6 事業の提案を受け付けしました。

審査の中で特に重視されたのは、「協働にふさわしい事業か」でした。なぜ協働するのか、なぜ協働の相手方を市とするのか、市との協働の必要性の理解と説明が出来ているかどうか、評価のポイントとなり、これらについて、明確に回答できた団体を高く評価しました。

6 事業を審査した結果、平成 22 年度協働パイロット事業として、

しずおか子育てフェスタ『生まれる前からの子育て』

玉川学区健全育成会『住んでよし・訪れてよしの玉川にしよう』

STCCA 地球温暖化防止を考える会『家庭ゴミ減量から始まる STOP 温暖化』

の 3 事業を採用するよう市に提案しました。

また、そのほかの 3 事業については、審査委員会として、残念ながら選外とさせていただきます。今後、企画内容をより工夫し、再度の提案や自主的な活動としての実施、他団体、企業、大学などとの協働による実施も視野に入れ、取り組まれるよう審査委員会一同期待しております。

審査結果は以下のとおりです。

---

採用 =

しずおか子育てフェスタ『生まれる前からの子育て』

社会のニーズを的確に捉えており、今後の波及効果も期待できることが評価されました。市の子育て支援だけでは救えない部分を救うということに、行政との協働の必要性も感じられました。「母親のひとりひとりに寄り添う」ことを重視するのであれば、大規模なイベントではなく、サロンのようなもので実施していく方法もあるとの意見がありました。今後企業等の協力を得ていくためには、団体としての方向性を明確化することも必要です。

玉川学区健全育成会『住んでよし・訪れてよしの玉川にしよう』

自治体・NPO・市・学校というネットワークの中で行う事業であることに、独自性が感じられました。昨年度 NPO 法人開発教育 FUNCLUB として提案があり、採用されたものの実施に至らなかったという経緯がありましたが、そこでの課題を解決させた上での提案に、より実現性の高さが感じられました。今後、経済問題や限界集落問題の解決にまで繋がれば、他の地域のモデルにもなると考えます。

STCCA 地球温暖化防止を考える会『家庭ゴミ減量から始まる STOP 温暖化』

事業に具体性があり、実現性の高さが感じられました。過剰包装等販売者への視点も加わってくれば、より広い視野で事業を実施していけるのではないかと考えます。社会的課題としてのニーズも高く、市民にとっても身近な問題ですので、市の担当課と充分意見交換した上で、実施するようにしてください。

不採用 =

静岡人権フォーラム「ワークショップで考える人権講座」

講座ごとのテーマ設定、講師、時間割等計画が具体的であり、実効性が高い事業であることは評価されました。意気込みは感じられましたが、協働で実施すべき、具体的な提案が必要です。また、喫茶店を会場にワールドカフェスタイルで実施するなど、ワークショップ部分に重点を置き、受講生の参加性を高くすることで、より発展性のある事業になるのではないかと考えます。人権は、重要な問題ではありますが、市民にとって馴染みにくいものでもあります。今後も、少しずつでも地道に活動を続けて行ってください。

海辺工房ひとで『博物館を活用した子育て支援事業』

博物館を使っの「子育て支援」という点に独自性が感じられました。一方、評価のポイントとなった、市との「協働としてのふさわしさ」が感じられず、東海大学との協働で実施していく方が、より高い効果を得られるのではないかと考えました。今後事業を実施していく中で、市との協働の必要性をご確認頂くとともに、対象施設を博物館に限定せず、美術館等他の施設も総合的に活用しての「子育て支援」を展開することができれば、より良い事業になるのではないかと考えます。

みらい市民会議「子どものための静岡市自治基本条例講演会事業」

子どもへの静岡市自治基本条例の普及という視点は、社会的課題への取り組みとしても適切だと思えますが、市との協働の必要性、仕組みとして実現性が不明確に感じました。また、協働として本務と異なる職員を、職務専念義務を免除し、講師派遣することはできませんので御了解ください。普及のための冊子は、子どもにもわかりやすくするための工夫が加えられていましたが、その上で、絵を本文中に効果的に挿入したり、自治基本条例が制定されることになった経緯やその背景にある社会的課題のエッセンスをわかりやすく紹介することで、子どもたちのモチベーションを喚起し、理解がさらに深まるとの意見もありました。